公益社団法人　宇佐青年会議所　理事長所信

２０２２年度　第４９代理事長予定者　山上　隼哉

【はじめに】

宇佐青年会議所は、創立から本年で４９年を数えます。我々を取り巻く社会情勢は変化し続けてきましたが、青年会議所はまちや社会全体を青年の目線から幅広く捉え、問題を自ら見つけ、運動・活動を通し地域をより良く変える事業を展開してきました。

現在の社会は、コロナ渦という百年に一度の試練と向き合っています。この新型コロナウイルス感染症の流行は、人の移動抑制をあらゆる場面に要求しました。個人、家庭、地域、企業などの経済団体・公共団体といった、社会を構成するすべての要素がその活動に変化と停滞を強いられており、いま現在、そして将来への影響が強く懸念されます。

私たちの住み暮らす宇佐市・豊後高田市は、新型コロナウイルス感染症の流行に直面する以前より、人口流出や出生率の低下による人口減とこれに伴う経済活動や公共サービス縮小という問題に向き合っています。昨今の社会情勢は一層の所得や雇用・教育機会の減少を招いており、人々の間の格差拡大が懸念されます。移住・交流の停滞、働く場所・働き方の多様性の低下、観光客・住民の移動困難といった課題が山積する状況にあります。

また価値観の多様化や情報技術の発展は個人の活動の幅を広げています。地域社会では個人や各種ＮＰＯをはじめ多くの社会貢献団体が社会をより良くしようと活動する時代となりました。「青年会議所しかない時代から、青年会議所もある時代となった」という表現で、組織が持つ価値が埋没しているという指摘も聞かれます。

我々の地元である宇佐市、豊後高田市は子育て支援、移住支援に取り組み、人口減という課題に立ち向かっています。昨今感染症の拡大を抑制する取組みとして、企業や雇用者は対面接触や通勤リスクを避けるためのテレワークなどの代替技術を積極的に取り入れるようになりました。こうした変化は、「東京一極集中」の流れを緩和する一つのきっかけとなる可能性があり、風物や文化と、山海の恵みにあふれるこの地域の発展を後押しする契機ともなり得ます。また本年、近隣の施設である大分空港が米企業により宇宙港として開港しますが、大分県の持つ観光資源、豊かな山海の恵み、各種インフラを高く評価したことが選定に繋がったという背景があります。世界のビジネスが地元に注目するというチャンスが到来しつつあります。ともすれば我々は、感染症や少子高齢化をはじめとする多くの課題に、逆境の続く時代を歩むようにも感じられるかも知れませんが、価値観と人の動向が変わる転換点としてのチャンスが生まれる時代を歩んでいるとも言えるのではないでしょうか。

そして２０２２年度は、大分県初の日本青年会議所会頭を、この宇佐青年会議所とも関係の深い大分青年会議所の中島土君が務め、この大分県で初となる全国大会も開催されることで、出会いと成長のチャンスにあふれた年度となります。

地域おこし、町おこし、そして人材開発を謳う団体は数多くありますが、それぞれの利益やメリットを前提とせず、所属メンバーがそれぞれの視点で社会課題を発見し、持続可能な地域を創るための奉仕を続ける団体は青年会議所だけだと考えます。事業というまちをより良くする運動・活動を通し、青年に発展と成長の機会を提供し、リーダーの育成を目指す修練の場という青年会議所の原則は、時代を経てもただ一つの価値を持っていると確信します。

【人づくりグループ】

地方が直面する転出超過や出生率低下による人口減少は、所得や雇用、教育機会の減少につながり、今後人々の間の経済格差の拡大が懸念されます。さらに新型コロナウイルス感染症の流行は地域の祭りやイベントなどを中止せざるを得ない状況を強いており、青少年が触れる学びの機会が大きく奪われている現状にあります。

高度成長期、遊び場が開発により姿を消す中で、ふれあいと交流の機会が減少しつつある子供達にスポーツの機会をより多く与え、心身の鍛練と健康の増進とを目的として、「わんぱく相撲」がスタートしました。宇佐青年会議所の代名詞の一つとなっている本事業は、新型コロナウイルス感染症の流行下でその必要性を一層増しているのではないでしょうか。

わんぱく相撲担当委員会では、厳重な感染症対策のもと開催を試みた昨年度大会の経験を十二分に踏まえ、安心・安全な大会運営を実現します。感染対策を十分に行った大会運営は、収束の見込みを立てることがまだまだ難しいコロナ渦において、大会・各種イベント開催のモデルケースとして地域に寄与しうる内容を目指します。本年も第３５回わんぱく相撲双葉山杯の開催により、「スポーツとしての相撲」を通じ、「礼」を学び、「努力する」ことや「思いやり」等、社会生活に必要な徳性の涵養の場を創出します。また地域の英雄である昭和の大横綱「双葉山」を大会名に冠し、その偉業を伝えることで、子どもたちの抱く郷土の誇りを育みます。

【地域づくりグループ】

新型コロナウイルス感染症の流行や、近年頻発する大規模災害は、東京一極集中という現状への問題提起を投げかけ、改めて地方分散の必要性を社会に強く訴えかけています。

我々の住み暮らす宇佐市・豊後高田市は美しい風景の中に有形無形の貴重な文化財にあふれており、また山海の恵みに支えられた豊かな食文化は全国に広く知られるところです。この魅力あふれる地域を内外に発信することは、移住・定住や交流の機会を創出することに繋がり、人口減による公共サービスや地域経済の低下などの諸問題を解決する糸口となり得ます。

地域貢献委員会では、実行委員会を構成する行政や各種団体とともに、第６回宇佐神宮マラソン開催実現に向けた各種運動・活動を展開してまいります。また、郷土愛祭りを主催事業として同時開催します。地域の魅力を掘り起こし、発信することで、我々の郷土が地方分散の時代におけるチャンスを掴む機会を創出します。第６回宇佐神宮マラソン・郷土愛祭りの開催にあたっても染症対策を十分に検討・実施し、地域における大規模イベント開催の嚆矢となることを目指します。

【ビジネスグループ】

新型コロナウイルス感染症による人の移動抑制は全国で経済活動の低下を強いています。経営者にあっては事業継続性や機会の減少、雇用者にあっては求人数や職業選択の機会の低下という状況が生まれており、地域経済の持続可能性を揺るがしうる状況にあります。

一方、海外企業による大分の各種資源に注目した宇宙ビジネスの開始や、全国大会の地元開催、あるいは起業家に対し後継者不足に瀕する各種事業を継承する門戸を開く施策がスタート

するなど、我々を取りまくビジネスチャンスは増加しつつあります。また、持続可能性を重視する世界的な価値観の変容は、経営者にとって試練であるとともに、地域に根差したビジネスを後押しし、あるいは新たなビジネスが生まれる大きな契機ともなっています。

今こそビジネスの機会を再度捉え、供給と需要の両面からビジネスの機会を提供していく運動が必要ではないでしょうか。広くチャンスに触れられる場面を提供し、新たなビジネスへの挑戦者を増やし、またどんな人でも挑戦できる社会を作るために、機会の平等を実現する一助とします。

未来ビジネス創造委員会では、会員同士の交流はもとより、広く地域の異業種交流を通し、ビジネスの機会創出に寄与します。また、市民・企業向けの各種講演会などの開催を通し、多くの人々がビジネスチャンスを掴む契機を得ることで、地域経済の発展に寄与してまいります。

【拡大・周年グループ】

宇佐青年会議所は本年度多数の卒業者を予定しており、会員数の増加が喫緊の課題となっています。また価値観の多様化や情報技術の発展で個人という単位をはじめ各種団体が社会貢献を掲げ活動する時代となりました。青年会議所という組織も時代という大きな流れの中、多彩に移り行く青年たちの価値観にとって多くの選択肢の一つとなり、ともすれば地位が埋没しているという指摘もあります。

青年会議所は、まちや社会全体を青年の目線から幅広く捉え、問題のある仕組みを自ら見つけ、 より良く変えるという運動を行う組織です。各種団体がターゲットを絞った活動を行う一方、広い視野から社会課題に取り組む組織は、青年会議所だけだと考えます。繋がりにより利益を生み出すことを目的とせず、事業を通し、青年に発展と成長の機会を提供し、リーダーの育成を目指すという青年会議所の価値を幅広く地域の青年たちに紹介し、明日の仲間を増やす運動がより一層必要とされていると考えます。

会員拡大・50 周年準備委員会では、まず１０名の新入会員入会を目標とし、他グループと連携し各種活動を展開してまいります。一人でも多くの青年を仲間として迎え、明日の地域を創るリーダーの育成と、持続可能な組織の形成に寄与します。また、来る２０２３年に５０周年を迎えるにあたり、これまでの宇佐青年会議所の歩みを振り返り、先人と我々自身の歴史から学びを見出し、ＯＢ・ＯＧ、現役会員相互の絆を改めて温め、結ぶ活動を展開します。対内だけでなく、日本 JC、他 LOM、行政、企業といった他団体とのつながりを構築・維持することで、一層の地域貢献の機会創出を図ります。

【運営グループ】

青年会議所運動・活動の要となり、土台となるのが総務委員会・事務局が担う組織運営です。本年度はブロック協議会等の組織に倣い、運営の担いを総務委員会と事務局長に分割し、より円滑かつ効率的な運営を目指します。運営グループは組織において、総会・例会・各種事業の情報、会員個々の情報を常に心臓のように循環させ、運動・活動を強力に進めていく力の基礎となります。隅々にまで行き渡る発信はメンバーの参加意識を高め、一人ひとりが主体的に一歩を踏み出せる組織へと自然成長を遂げることに繋がります。

地域社会の変化に応じた運動を適時かつ効果的に展開するために、すべての事業の基礎となる各種会議・総会・例会を時々の情勢に合わせた形式で確実に開催し、目標達成に向けた歩みを止めないことが重要です。もとより、青年「会議所」と組織名称にあるように、各種会議の意義を最大化することは最も重要な使命の一つです。運営面における必要十分な設えはもちろん、議案上程者・参加者の入念な準備を促し、会議一つ一つの機会を会員の成長と地域の諸問題解決につながる、実りある内容とすることが必要です。また総会・例会の開催にあたっては、高い出席率のもと、会員にとって成長の機会としての内容を目指します。

近年広報業務は一層重要性を増しています。各種メディアや、ホームページとＳＮＳを活用し情報発信することは、宇佐青年会議所のブランディングそのものに直結します。適時かつ適切な情報の発信により、事業の効果を最大のものとし、運動の対象となる市民、将来の仲間となるべき志ある青年の心を掴みうる、効果的な広報活動が必要です。

渉外業務にあっては日本青年会議所、九州地区協議会、大分ブロック協議会、近隣青年会議所との連絡を密にし、良好な関係を築くことで、相互に事業の効果を最大化することに寄与します。

【結びに】

これからの社会発展に求められるキーワードの一つとして、「Well-being」という言葉が取り上げられる機会が多く見られます。これは、地位・金銭・モノといった量的価値ではなく、安定性や健康といった質的価値に重きを置くことで生産性や持続性を向上させるという考え方です。個人や組織、企業が思いやりや共感という観点に立ち、「自分や相手を深く理解し、役に立ちたい」という純粋な思いに基づき行動し、また、自分自身や相手と寄り添い「共にいる」力を備え、心理的な安全性を高めることが生産性や持続性の向上につながるのです。我々のこの青年会議所という集いも、あらためて会員一人ひとりに深く寄り添い、理解しあうことが必要であると考えます。そして社会や地域と共に歩み、深く理解することでお互いの発展の機会を創り出して参りたいと考えます。